



森のなかま

2022年6月号
NO.168 (継続313号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

<かながわトラストみどり財団 主催>

令和3年度第3回ブラッシュアップ研修

「枝打作業 技術研修」

日時： 2022年2月27日(日) 9:00~16:00

場所： 箱根町畑宿(二子山県有林)

<かながわトラストみどり財団> 古館様 藤本様

講師 統括L岩田 典義^⑭ 大橋 聡^⑪ 大見 文夫^⑮ 石井 裕^⑮ 斎藤 夏葉^⑬

受講インストラクター 4Gr 24名

(記 黒川 敏史^⑭)

未だ残雪が残る箱根の畑宿で、かながわトラストみどり財団主催のブラッシュアップ研修が開催されました。(報告が遅くなり申し訳ありません) 研修内容は、県民参加の森づくりや学校関係のネットワーク活動でニーズが増えてきた「枝打作業」です。今回の研修は、実際の枝打作業を行い、インストラクターの技量を上げることによって、指導のレベルアップを図ることを目的としています。

研修場所となった畑宿の県有林では、植樹された杉が3~5mに育ち、下の方の枝は枯れ始めていました。最初に岩田統括リーダーから、枝打の一般的な心得と作業の方法について説明がありました。

主なポイント

- ・枝座(枝隆)や枯れ枝を巻き込もうとして隆起した幹側の部分、幹の樹皮等に傷をつけない(傷つけるとボタン材になる恐れがある)
特に、枯れ枝の根元に注意、切断面の写真で説明がありました。
- ・枝の部分だけをなるべく短く切る
- ・丁寧に・慎重に作業する
枯れ枝は竹挽き鋸の方が切断面に傷をつけず切りやすい
- ・切った枝の置き方は、オーナーの要求がある場合があるので都度確認する
- ・切り残し最終確認(切った高さから根本まで手で一周確認する)

その後寒い中、実際に枝打作業に入り、雪に埋まった枝の跳ね返りに注意しつつ、各Gr100-200本ずつの枝打をしました。

- ・暗かった林が、だいぶ明るくなり、達成感を得た。
 - ・幹をハグして最終確認するとき木のぬくもりを感じた。
 - ・枝座、枝と幹側の部分の見極め、切る位置の確認が難しい。
- などの参加者からの感想がありました。



森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

咳やくしゃみが止まらない、鼻水が出る、そんな症状をやわらげてくれる草木の香りがあります。前回にスギの葉の精油にアトピーのかゆみを抑える効果があることをご紹介しました。スギ葉の香りには咳を鎮める働きもあることが分かっています。各地に植林され人工林の40%以上、森林面積の2割近くを占めるスギです。身近に手に入れることができることでしょう。柑橘系のさわやかなスギの葉の香り、ぜひ試してみてください。

身近なものではシソもその例です。もともとは中国原産ですが、縄文時代の遺跡から出土するほど私たちにはなじみの深いシソは平安時代にはすでに栽培されていたとのこと。健胃、鎮咳、鎮静作用があり、生薬として使われているシソですが、葉の煎汁を飲むことで、花粉症の方が花粉シーズンに飲むと鼻汁、クシャミ、花のかゆみが和らぐことが実証されています。

ウメも身近なものの一つで、青ウメをすりおろして煮詰めた梅肉エキスには殺菌作用があり、かぜや疲労回復にもよく、青ウメを煙でいぶした烏梅（うばい）は去痰、解熱に効果があります。

春先に大きな枝ぶりの先に白い花を咲かせるコブシ、サクラより一足先に咲く花は春の到来をいち早く知らせてくれます。昔はコブシの花咲くのを見て稲の苗代づくりを始めたと言います。その花のつぼみを陰干ししたものは鼻づまりや蓄膿症などの鼻の疾患に効果がある生薬として知られています。

若葉を餅に入れて食用にするのでモチグサの名をもつヨモギはあぜ道などに広がり生える野草ですが、1, 8-シネオールという去痰作用のある成分を多く含み、のどの痛みに効果的です、



第45回 咳や鼻炎に 効果のある草木 東京大学名誉教授 谷田貝 光克

ハッカにはいくつかの種類がありますが、野原でも野生のハッカを見ることが多くなりました。モルモットを使った実験ですが、ハッカの香気成分には気道の収縮をやわらげる働きがあることが分かっています。バラの花の香気成分ゲラニオールにも同じような働きがあることが確かめられています。アレルギー性鼻炎ではアレルギー物質に接触するとヒスタミンを遊離してくしゃみ、鼻水を引き起こしますが、ハッカの一種ペパーミントの葉、茎の抽出物にはヒスタミンの遊離を抑制する効果があることが分かっています。抽出物の経口投与でくしゃみの回数が減ります。草花の良い香りはストレスをやわらげるだけでなくのどの緊張もやわらげてくれるのです。

庭先を赤い実で彩るナンテンは難を転ずると言われ縁起物として利用されます。その果実を日干しにし、煎じて飲むと咳止めに効果があります。実にはアルカロイドが含まれ苦く、葉にはタンニンが含まれ煎じて飲むと口内炎に効果があり、うがい薬として利用されます。

ミカン科特有の芳香のある白い花を咲かせ、枝いっぱい小さな黄金色の実をつけるキンカンの実は砂糖漬けにして食べますが、咳やのどの痛みに効くことで民間薬として利用されてきました。咳止めの民間療法としてはほかにも大根おろしやショウガ、オオバコの葉の煎じ汁など、数多く知られています。



古くから先人たちの経験によって身のまわりの草木が利用されてきたのです。進歩した科学の時代に生きる私たちですが、今一度身近な草木の働きを見直すことも必要なことではないでしょうか。

(イラスト 広報11期 長尾(大塚) 晴子)

活動短信

今回の掲載はR4年3月30日から5月13日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

6月(水無月)(旧暦5月皐月)の二十四節気と田んぼ(鎌倉)の様子

芒種 6/5 頃

イネ科の植物の植付、刈り取りのころ。まさに田植えが始まります。麦刈りも同時に進みます。

夏至 6/20 頃

菖蒲や、半夏生の季節です。田んぼでは田植も終わり、生えてくる雑草との競争になります。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

インストラクター① (○数字:期) 研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ O.K. Kids Academy 枝打ち体験

日 令和4年3月30(水) 10:30~13:00 曇り

場 21世紀の森 平成25年度成長の森

参 大人2名、子供23名、計25名

財 藤本様

L 牧石⑭、上田⑩、山口⑪、石垣⑮

小学1年生~小学6年生のO.K. Kids Academyの生徒23名 先生2名の参加で枝打ち活動を行いました。

21世紀の森駐車場で小1、2年生グループ、小2年生グループ、小3年生グループ、小3、小6年生グループの4班に班分けと、インストラクター紹介を行ったのち用具



保管倉庫前に移動。用具を装着後した後、平成25年度成長の森に移動し、銘板前で成長の森についての説明を実施しました。

枝打ちは一人1本の枝打ちを行い交代する手順で行いました。約30分の枝打ちを行った後、全員で一斉休憩をとり休憩時間を利用して2つの紙芝居「かながわ しずくちゃん と 森のなかまたち」、「水は森林からやってくる水源の森林づくり」を使い、森林と環境について質問形式で話をさせていただきました。生徒の皆さんより積極的な多くの意見が出ました。



高学年班は7本、他の班は各班3本、計16本の枝打ちを行い12:50に移動開始、用具の返却を行い13:00解散。活動中、先生から生徒への会話は全て英語で行われていました。

(記、写真 牧石 稔⑭)

◆ 第一回 県民参加の森林づくり 茅ヶ崎里山公園 除伐

日 令和4年4月19日(火) 9:30~12:00 曇り

場 茅ヶ崎市芹沢 茅ヶ崎里山公園

参 77名

財 豊丸課長 藤本様

看 佃様

スタッフ 公園協会 西村様、谷様

神奈川県森林組合連合会 岡本様

L 鈴木⑭、佐藤⑤、小笠原⑩、吉田⑪、東⑫、

大原⑬、石垣⑮、竹内⑮、飛田⑮、小林⑯、岡村⑯

今年度最初の「県民参加の森林づくり」は昨年11月に行われた茅ヶ崎里山公園での活動(「森のなかま」本年1月号を

ご参照ください)のフォローアップです。昨年とはほぼ同じエリアで

孟宗竹を中心に除伐作業を実施しました。前日に雨が降ったこともあり、足場注意と伐倒時の声掛け敢行を重視した作業でした。参加者の皆様は、「県民参加の森林づくり」の常



連の方々、「茅ヶ崎里山公園倶楽部」の皆様など猛者が揃い、約 2 時間の作業で里山がすっかりと早変わりしました。その里山を見回して、公園協会の方々が「ここにこと「ありがとうございました」と仰ってくださいました。



昨年との違いはベテランの参加者の皆様に交じって企業若手社員の皆様総勢 17 名が加わったこと

です。全員が生まれてはじめての森林整備活動で、「足元注意」「声掛け」を重視といわれてもどうしたらいいのか最初は大困惑の様子でした。しかし、インストラクターの実演説明とベテラン・ボランティアの皆様のきびきびした動きやはっきりした声掛けをお手本に、そのうちには難しい場所にあった孟宗竹を「僕が切りたいで」と申し出る方もいて、頼もしい限りでした。作業終了までにはずいぶん声も出るようになりました。インストラクターとして前途有望な若者達に、これを機会に今後も「県民参加の森林づくり」への参加等を含めた地球環境の改善に向けた活動に積極的に参加してもらいたいと思いました。

(記 飛田 尚弥^⑮ 写真 財団 藤本様)

かながわしずくちゃん Facebook は下記 URL で見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 株式会社 鈴廣蒲鉾本店 新入社員研修

日 令和 4 年 4 月 27 日(水) 13:00~15:50 曇り

場 やどりき水源林

参 16 人

県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課

水源の森林推進グループ 岡田様、村田様

イ L 牧石^⑭、松石^⑬、堀口^⑯

やどりき水源林内の「恵水の森」で林内整備、カントリーヘッジ作成後、管理棟に移動し蒲鉾板(不適合品)とコースター使ったスマホ台作りを行いました。13:00に倉庫前に集合し用具の装着後準備体操を行い、活動場所まで移動。カントリーヘッジ作成に必要な支柱は移動中の林道で調達。現地に着後「恵水の森」看板前で記念撮影を実施。3班に分かれ最初の

作業は、手元ロープとかげやを使い杭打を実施。場所によっては地面が固いため杭打ちに苦勞しました。前日の雨に影響もあり、ヤマビルの大歓迎を受けながらの作業となった、予定時間より 1 時間早めに終了したため、雨天バージョンに用意したスマホ台を作る事にした。倉庫に戻り用具の整備をしたのち間伐鋸を持ち、管理棟に移動しスマホ台の台となるコースターを各自 1 枚作成していただき、事前に準備した蒲鉾板(不適合品)と固定用の丸ピン 4 個、プッシュピン 1 個(百均グッズ)がセットになった材料を各自に配布しスマホ台を作成。組立は 1~2 分で完了、15:50 予定の活動を終了しました。



スマホ台

(記、写真 牧石 稔^⑭)

◆ やどりき土壌水生班「水生生物調査」

日 令和 4 年 5 月 8 日(日) 9:30~14:30 曇り

場 やどりき水源林

イ L 井出^①、佐藤^①、宮本^④、草野^⑧、水口^⑨、山口^⑩、古館^⑬、國弘^⑭、牧石^⑭ 9 名

<調査の目的>

水が豊かなやどりき水源林では、「水源林の集い」や各活動で、夏を中心に水生生物観察会が行われてきました。しかしコロナ禍ということもあり、この数年観察会の多くは実施されず、また 2019 年以降の台風等の影響により寄沢は荒れ、水生生物は減少し小型



のものしか見つからないようになりました。

今年はコロナも落ち着く傾向にあり、「水源林の集い」や各行事で、水生生物観察会が行なわれることが予想されます。そこで、観察会がスムーズに行えるよう、安全面のチェック、水生生物の有無の確認等を中心に調査を行いました。

<調査内容・方法>

・場所：寄沢6カ所(広場横から管理棟横まで)

後沢出会い3カ所

・調査方法：3人一組で15分間採取し、白バットに移した後、見つけた生物の種類・量を記録する。



<結果>

比較的大型のカワゲラ、トビケラ、ヘビトンボの各幼虫、さらにカゲロウの幼虫各種、プラナリア、サワガニ、カジカの幼魚、カジカガエルの卵など、質量とも多彩な生き物を観察することができました。

一方、川は沢筋がえぐられ、流れも速い個所も多く、以前と比べ荒れており注意が必要です。

水生生物観察会では参加者の安全を配慮した上で、生物採取・観察を楽しんでもらいたいと思います。



上から
・ヒゲナガカワトビケラ
・ヘビトンボ
・マダラカゲロウ
の各幼虫

(記・写真：井出 恒夫①)

◆ 横浜市立岡津小学校 愛川ふれあいの村 体験学習

日 令和4年5月13日(金) 9:00～11:30 雨

場 県立愛川ふれあいの村

参 先生8名、児童97名、計105名

財 古舘様、南橋様

イ L 西出⑫、柏倉④、佐藤⑤、小野⑦、久保⑧、
内野⑨、松本⑪、牧石⑭、竹内⑮、小林⑯、松浦⑰

前日からの雨で間伐体験は中止となり、愛川ふれあいの村で雨天プログラムを実施しました。まず班毎に別れてインストラクターが森林に関する講話をしました。その後、グループに分かれて村内の樹木を探索する「木ラリー」を行いました。子供達にとっては、間伐ができなくて残念だったと思いますが、こういう機

会でなければ聞く事のできない森林に係わる幅広い知識に触れる事ができたと思います。

まず、集会室で始めの会の後、9班に分かれて30分間、インストラクターが森林講話



森林講話の様子

をしました。森林の育成、森林の働き、森林の現状、森林と水の係わり、神奈川の水事情などについて、子供達に資料を見せながら分かり易く説明しました。その後、間伐に使うヘルメット、大鋸、枝打鋸、スリング、滑車などの道具を手に取りながら使い方などを説明しました。

森林講話の後は、約1時間、外に出てふれあいの村の樹木を探して解答用紙に樹木名を記入する「木ラリー」を行いました。4～5人のグループに分かれて、樹木の番号を示した地図を頼りに樹木を探します。各樹木にはインストラクターが待機して、子供達がやって来て解答を終えると、インストラクターはその樹木に関する話をして、子供達の質問に答えま



間伐道具の説明

す。例えば、クヌギは樹液がカブトムシやクワガタの大好物で樹液を求めてやって来ることや、写真を見せながら、ドングリは丸くて大きいこと、昔は炭や薪に使った生活に欠かせない木であった事などを説明しました。「木ラリー」の終了後、集会室に戻って、終りの会をしてお別れとなりました。

(記・写真 西出健一⑫)



やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

案内人は、皆様をお待ちしています。
水源林にお出かけください。

やどりき水源林ニュース5月号
発行しました。



<http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news194.pdf>

- やどりき水源林問合せ:
(公財)かながわトラストみどり財団
TEL: 045-412-2255
FAX: 045-412-2300
- ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>
E-mail: midori@ktm.or.jp

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当: 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: kshinrin_pr@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小林 照夫

Mail: kobayashi@ts-pocket.jp

原稿は随時受け付けています。

イベント情報

緑の祭典 秦野

5/22 に開催されました。

7月号に記事を掲載します。

水源林の集い やどりき水源林

8/6 (土) 開催されます。

編集後記

★(4月末)5時ごろ、ウグイスが家の目の前で。何と電線に止まって轉っていました。電線に止まっている光景は人生で初めて見ました。雨戸を静かに開け見聞きました。雨戸の音でも逃げないのですが、カメラを向けると逃げます。スターは簡単に撮らせてくれませんでした。それでも連日くるので何とか写真撮影ができました。



(松本)

★退院後、なかなか体力が回復しないでもどかしい。登山、ゴルフ、水泳といったスポーツレベルの話ではありません。走る、歩く、投げる、持ち上げるといった基礎体力が、いまだ入院前の半分以下! 竹を引っ張っているとしなで飛んでいきそう…マンガみたいな光景がいつも頭を横切ります。コペンハーゲン大学の研究では失った筋肉を戻すには3倍以上の時間がかかるとか。高齢者にとって、残された時間との競争なのですね。(竹内)

★掘っ建て小屋の屋根葺き材が欲しくなり、ヒノキの皮むきを試みた。間伐予定の樹木の樹皮をむく、これは「巻き枯らし」をするための手法だ。皮むきそのものは思いの外簡単にできたが、ツルツルとした肌を見せたヒノキがなんとも痛々しく、やはり伐採はそのまの姿・形の方が心情的には良い。しかしながら、荒廃した樹林で多くを間引く目的の時は、皮むき間伐(巻き枯らし)は得策と思える。それは、一年ほどで葉は全て枯れており、二年もすれば幹そのものも乾燥して枝は脆くなるはずだ。そうなれば伐倒の際、架かり木になる確率はかなり低くなるのではないかと期待が持てる。(中澤)

★立川でC.Wニコルさんの活動奇跡パネルの展示会が開催されました。ニコルさんの黒姫での活動、それと柳生博さんの八ヶ岳での活動などすばらしさを感じます。(阿藤)

<お詫びと注意喚起>

・最近、2016年3月の移転前の旧事務所連絡先への間違い電話・faxがあり、ご迷惑をおかけしております。申し訳ありません

・皆様へ 当会への連絡は下記の正しい連絡先へお願いいたします。

NPO 法人かながわ森林インストラクターの会

TEL 046-297-0301 FAX 046-297-0302

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田都夫 松本保 笠原かずみ 阿藤壽孝 長尾晴子

竹内明彦 柳澤千恵美 小林照夫 中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子

5月から広報部イラスト担当として、11期 長尾晴子さんをお迎えしました。